

# 製品安全データシート

作成日：2010年 2月25日

改訂日：2011年 8月22日

## 1 製品及び会社情報

製品名：メタルクリーナー（ペースト）CA305-120C0

会社名：株式会社ファルテック

住所：〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地

電話番号：044-520-0277

FAX番号：044-520-0521

## 2 危険有害性の要約

危険性：通常の取り扱いでは危険性は低いが、加熱すると引火性がある。

有害性：皮膚、目に接触すると炎症を起こすことがある。

蒸気を吸引すると気分が悪くなることもある。

環境影響：現在のところ有用な情報なし

**GHS分類：分類基準に該当しない**

## 3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

含有成分及び含有量

成分名・化学名	含有量mass%	CAS No.	化審法No.	安衛法No.	PRTR法No.	毒劇法No.
酸化アルミニウム	40	1344-28-1	1-23	189	—	—
乳化剤	10	非公開	非公開	—	—	—
増粘剤	7	非公開	非公開	—	—	—
スピンドル油	38	—	—	—	—	—
固形パラフィン	5	—	—	—	—	—

注) 化審法No. 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法) 官報公示整理番号

安衛法No. 労働安全衛生法(安衛法) 第57条の2 第1項政令指定物質の政令番号

PRTR法No. 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)  
対象化学物質の政令番号

毒劇法No. 毒物及び劇物取締法の政令番号

## 4 応急処置

吸入した場合：不快感を覚えたら、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動し、安静にする。

もし、異常があれば医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：直ちに清浄な水で洗い流す。異常があれば医師の診察を受ける。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合：研磨粉が入っているため、眼をこすらずに、清浄な流水で15分以上、瞼の隅々まで十分に洗眼する。異常があれば、医師の診察を受ける。

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合：直ちに吐かせ、医師の診察を受ける。

## 5 火災時の措置

消火方法：炭酸ガス消火剤、泡消火剤、粉末消火剤

特有の危険有害性：燃焼時に有毒ガスが発生する。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

---

## 6 漏出時の処置

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収：漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

取扱い：換気の良い場所で保護具(眼鏡、手袋)を着用して、できるだけ本品が皮膚等に付着しないよう注意して作業する。

保管上の注意：確実に蓋をして、直射日光、高温を避け、通風の良い場所に保管する。

混触禁止物質：データなし

---

## 8 暴露防止及び保護措置

設備対策：室内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度：[作業環境評価基準] 設定されていない

許容濃度：[日本産業衛生学会] 設定されていない

保護具：必要に応じて保護眼鏡、手袋等を使用する。

---

## 9 物理的及び化学的性質

外 観：白色ペースト状固体

比 重：1.2±0.1 (20℃)

沸 点：データなし

引火点：140～200℃ 【スピンドル油のデータ】

発火点：247℃ 【スピンドル油のデータ】

p H：データなし

溶解度：水に不溶

---

## 10 安定性及び反応性

安定性：通常の使用条件では、安定。

危険有害反応可能性：加熱しなければ引火の危険性は少ない。

避けるべき条件：日光、熱

混触危険物質：データなし

危険有害な分解生成物：データなし

---

## 11 有害性情報

急性毒性：【酸化アルミニウム】経口 ラット LD50: 5mg/kg (RTECS)

皮膚腐食性・刺激性：皮膚、眼、鼻、喉等の粘膜を刺激することがある。

その他毒性：データなし

---

## 12 環境影響情報

生態毒性：データなし

残留性・分解性：データなし

生体蓄積性：データなし

---

## 13 廃棄上の注意

残余廃棄物：焼却法

少量の場合はおがくず、ウエス等に吸収させて開放型の焼却炉で焼却する。

これを含む排水は活性汚泥等の処理により清浄にしてから排水する。

汚染容器及び包装：空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

---

---

## 14 輸送上の注意

国連番号(品名): 非該当

国連分類: 非該当

注意事項: 運搬に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

他の危険物のそばに積載しない。

---

## 15 適用法令

消防法: 指定可燃物固体

毒物及び劇物取締法: 非該当

労働安全衛生法: 法第57条の2 名称等を通知すべき有害物質 No.189(酸化アルミニウム)

化学物質管理促進法(PRTR法): 非該当

---

## 16 引用文献

化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編(1991)

製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/>

国際化学物質安全性カード(ICSC) <http://www.nihs.go.jp/ICSC/>

---

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。

全ての化学製品には未知の有害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。

御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。

また、特別な取扱いをするときは、その場の使用環境に応じて安全対策を実施してください。